

課題名：介護・認知症対策スマートウォッチ連動型アプリの中国大湾区地域での展開に関する研究開発

代表機関／代表者：株式会社CogSmart／樋口彰

分担機関：該当なし

研究期間：交付決定日～令和8年3月

研究開発目的

- **臨床的意義**：高齢者の認知症及びフレイルを抑制・予防するための介護・認知症対策スマートウォッチ連動型アプリ「BrainUp」を用いた運動療法の有効性を明らかにし、非侵襲的で継続可能な予防介入モデルを確立する。
- **社会的意義**：急速な高齢化と介護人材不足が進む中国・香港地域において、介護負担の軽減及び高齢者の自立支援と在宅介護の質向上を図る。
- **関連研究開発**：国内臨床研究で有効性が示されたBrainUpをローカライズ、予防施策モデルとして実装し、現地での再現性と実装可能性を検証する。

取り組み

- **展開検討**：高齢者ケアセンターでのヒアリングやPoC実施を通じてニーズを把握し、競合分析と収益予測を行い、実行可能なビジネスモデルを確定する。
- **法規制検討**：香港および中国の医療機器規制を確認し、知的財産権調査と併せて、製品が医療機器に該当しないことを再確認して規制をクリアする。
- **展開・維持**：高齢者ケアセンターでのフィードバックを基に、マーケティング戦略と販路戦略、アフターサービス体制を具体化し、順次展開・維持。

期待される成果

- **社会的貢献**：香港・中国をはじめとする海外で、医療・社会的コストの増加抑制や介護人材の負担軽減、健康的なライフスタイルの促進
- **新産業創出**：バイオセンシング、AIによる健康状態の可視化、個別の運動処方、オンラインでの遠隔指導といった複数の要素を統合した「パーソナルヘルス最適化市場」の、日本発での創出
- **科学技術イノベーション創出**：AIによる行動変容支援モデルの開発や、デジタルヘルス分野における国際的な標準化への寄与

BrainUpアプリ



特徴・ユースケース

- スマートウォッチを装着して、運動するだけ。運動・身体活動は何でもOK。
- 介護予防に効果的な心拍数を直感的に理解。

